

学習目標	
(1) 進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。 (2) 材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。 (3) 身近にある作品などから、よさや面白さを感じ取るようにする。	
単元・題材名	学習の内容
4月	1. 大すき自分の線と色 ・水彩用具の扱い方を身につけ、自分の表現に生かす。
5月	2. 色・形 いいかんじ！ ・水彩絵の具の色の混ぜ方を試したり、工夫したりして、さまざまな色を自分で作る練習をする。
6月	3. ハッピー小もの入れ ・空き容器に紙粘土をつけて、生活の中で使うものを作る。 ・使う場所や用途などを考え、生活の中で使える小物入れなどを作る。
7月	4. まほうのとびらをあけると ・想像したことと、とびらの組み合わせを工夫して表現する。 ・友だちと鑑賞し合い、それぞれの作品のよさを味わう。
9月	5. クミクミックス ・自由に想像を広げ、素材を組み合わせで表現する。 ・友だちと鑑賞し合い、それぞれの作品のよさを味わう。
10月	6. うれしかったあの気持ち ・心に残った出来事を、そのときの気もちが伝わるように表す。 ・友だちと鑑賞し合い、それぞれの作品のよさを味わう。
11月	7. ふんわりふわふわ ・風ので動く仕組みを生かし、工夫して作品をつくり、楽しむ。 ・友だちの作品の動きを楽しみながら、それぞれの作品のよさを味わう。
12月	8. トントンサクサク 木の名人 ・木にくぎをうったり、木をけずったりして楽しいものを作る。 ・友だちと鑑賞し合い、それぞれの作品のよさを味わう。
1月	9. 大すきなものがたり ・主人公や登場人物の気持ちを想像する。 ・物語の好きな場面を選んで、様子を想像しながら絵に表す。
2月	10. いろいろうつつて ・材料を生かして版をつくり、刷り方を工夫したり、かき加えたりして、想像したことを紙版に表す。
3月	
評価の観点	
<b>【関心・意欲・態度】</b> 自分の思いで表現したり、鑑賞したりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。 <b>【発想や構想の能力】</b> 感じたことや見たことなど、材料や場所などを基に表したいことを思いついたり、形や色、用途などを考えたりしている。 <b>【創造的な技能】</b> 手や体全体の感覚を働かせながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫している。 <b>【鑑賞の能力】</b> 身近にある作品などの形や色などから、表現の感じの違いをとらえたり、よさや面白さを感じとったりしている。	
評価の方法	
テスト	発言内容
活動の様子	ノート
ワークシート	作品